



「変化への対応そして創造」



会長 村岡俊宏

会長時間

5月12日

皆様お元気でしょうか？

休会が続きますが、せめて会長時間だけは続けたいと思い、簡単ではありますが配信します。ご一読頂ければ幸いです。

風薫る5月、初夏を迎え気持のよい季節を迎えたと思ったらもう梅雨入りだそうです。うっとうしい日が続きますが、しっかり気持ちをもって前を向いて元気に頑張っていきましょう。

河野宮崎県知事は県独自に「緊急事態」を発令されました。新型コロナウイルスの変異種が急拡大しています。

特に、宮崎市での感染拡大が著しく、毎日のようにクラスターが発生しています。この変異種は、今までのコロナウイルスとは全く別の種になっているとも言われています。感染力が強くなり、子供や若者にも感染していく状況です。そういう状況下の中、マスクや手洗い・うがいといった「盾」からやっとなワクチン接種という「鎧」を持ちウイルスに立ち向かうことができそうです。5月10日から65歳以上の高齢者に対しワクチン接種の予約の受付が始まりました。絶対安心というわけでもありませんが、私は接種する予定です。接種した人の話ですが、1回目はインフルエンザ予防接種ぐらいの感じだったそうですが腕が痛くなった人もいたそうです。2回目は接種後気分が良くなく、1日ぐったりしていたそうです。中には、熱が出る方もいたそうです。接種日と翌日は休むぐらいの余裕があったほうが良いかもしれません。

このまま、だらだらと時だけが過ぎていくのを眺めているわけにはいきません。長引くコロナ禍による「自粛疲れ」や「宣言慣れ」も見受けられます。しかし、どうにかしてこの感染拡大を止めなければなりません。ワクチン接種後、急激に世の中が明るくなり、元のようになるわけではないと思いますが、藁をもつかむ思いでワクチンに頼り、この危機を乗り越えたいものです。

さて、この週末15日は「地区大会」です。黒岩幹事と日高次年度ガバナー補佐と出席を予定していましたが、オンライン参加に変更しました。時間に余裕のある方は、2730地区のホームページからYouTubeによるライブ配信があります。是非ご覧いただければ幸いです。

5月19日

こんにちは、皆さんお元気でしょうか？

新型コロナウイルス感染症に係わるワクチン接種の予約受付が済んだようです。今回は65歳以上の高齢者だけの予約でしたが、電話がつながらなかつたり、かかりつけの病院でないと受付ができなかつたりと大混乱だったようです。もっとスムーズにできるよう、市民目線で対応していただきたかったです。

日南市の予防接種計画を見ても国から来たものをそのまま対応しただけのようです。もう少し考えていただきたかったと思います。私も、やっとのことで予約が取れました。しかし、接種は7月になりました。これから年代別に順次対応されて行かれるようですが、今回のように大きな混乱がないように良く検討されスムーズにできるようお願いしたいものです。

さて、15日は「地区大会」でした。コロナウイルス感染拡大中の開催でしたので、オンラインでの参加にしました。鹿屋市での開催でしたが、早くから感染防止策を検討され開催されました。鹿屋ロータリークラブの

皆様におかれましては、大変なご苦勞をされたこととご推察申し上げます。

10時からの開催でしたが、『国際ロータリーの未来形成とロータリークラブ』との演題での中、地区割とガバナリーの在り方と呼称の変更の話がありました。今後変わっていくのかもしれませんが、ロータリーの在り方も少しずつ変化を取り入れなくはいけないとの話もありました。

今回、RI会長代理で ”千玄室” 様にご臨席いただいていたました。特別講演を約1時間話されましたが、大変驚きました。とにかく元気です。

1923年(大正12年)生まれで、98歳です。私の親の年代です。自分の生い立ちや、青年会議所からロータリークラブへの関りなど、たくさん話をされましたが、一つ一つの言葉に重み、深みがあり、とても良い時間を過ごすことができました。会場で直に聞くことができなかつたことが残念です。また、人と人とのつながりや、出会い、接し方など謙虚さを大事にするようにと言われました。多くの時を生きてこられた方の経験にもとづく言葉の重みを、ひしひしと感じる1時間でした。

しかし、オンラインは便利でよい部分と緊張感のなさが感じられ、何か物足りなさというものを感じています。県の緊急事態宣言は今月末まで続きます。皆様も気を緩めることのないようしっかり感染防止に協力をお願いいたします。

5月26日

NHK朝の連続ドラマ小説「おちょやん」が終了しました。朝、会社に行く前にドラマを見て出社するのが日常になっていました。朝食をとりながら見ていたのですが、毎日ちょっとずつ引き込まれていき、これを見ないと1日が始まらなくなっていきました。ドラマを見た感想としては、「現代とは程遠いしんどい場面が多かったけど、結構笑える場面もあり面白かった」と思います。最終回のドラマで「人生、たら・ればを言ってもしょうがない。思いどおりにならないから面白い」という表現にはとても共感しました。

「生きるっていうのは、ほんまにしんどうって、フフッ・・・おもろいなー」というセリフは、この世で生きる誰もがつらい思いを抱えながら日々生きているそれでも頑張っているという強いメッセージであり、応援の言葉と思いました。「人間万事塞翁が馬」と言いますように、何が良くて、どこが良くないのか？よくわかりませんが、目の前にあることに対し一生懸命努力して頑張ることが大事なことはないかと思えます。

ドラマの主題歌が「泣き笑いのエピソード」という題目で「秦基博」君が歌っていたのもひかれていった縁かもしれません。毎日、観て、聞いていると自然とメロディが頭の中に残るものです。彼の、柔らかく、優しい歌声、特徴あるメロディには特に惹かれました。秦基博君がデビューして10年ぐらいたつと思えますが、日南市出身と聞いた時は驚きました。また彼の母方の実家が明治屋書店と聞いたときはもっと驚きました。

おとし、榎田君の寄付で里帰りコンサートの当日、お墓参りをしていた時偶然出会った時も驚きました。どこにでもいるような若者でした。お墓の掃除をしているとき、ほんの2~3メートル先で、何度か目があいましたが頭を下げるだけで何も言えなかつたことが残念でなりません。多分、いつも彼のことを「明治屋の孫」と呼んでいたからではないかと思えます。

油津商店街、アーケードの銀天街が最盛期のころ、明治屋書店には大変お世話になりました。中、高校生の頃は学校帰りに雑誌の立ち読みをしたり、参考書を 買ったりとよく立ち寄らせていただきました。今、油津に本屋がありません。本当に寂しい限りです。

6月2日

今年度最終月になりました。

コロナウイルス感染拡大防止のため休会としています。何か明るい話題をと思っていたところ、小学生を対象に「憧れの人」調査というのが目に留まりましたのでそのお話をしたいと思います。集計では、お母さんは第2位、4位に先生、お父さんは5位です。そして残りとはいうと、なんと「鬼滅の刃」の登場キャラクターがトップ10入りしていました。コロナ禍で休校や外出自粛となり漫画やアニメに接する機会が増えた影響ではないかといわれています。

この「鬼滅の刃」とは、週刊少年ジャンプの連載まんがで、内容は大正時代を舞台に家族愛、兄妹愛を描いたストーリーになっているようです。

ちなみに順位は、

- 1位 竈門炭治郎 (かまどたんじろう)
- 3位 胡蝶しのぶ (こちょうしのぶ)
- 6位 富岡義勇 (とみおかぎゆう)
- 7位 竈門禰豆子 (かまどねずこ)
- 8位 煉獄杏寿郎 (れんごくきょうじゅうろう)

となっています。

こう話して「うむ、うむ」と納得される方がどれくらいおられるのか？また、名前を書ける方がおられるのか？孫からの電話の時、「炭治郎とか、禰豆子」とか言っていますが、まったく理解できません。

しかし、この「鬼滅の刃」の経済効果は3000億円以上とも言われ、海外でも大きな反響を呼んでいます。映画の大ヒットに続き、主題歌も大ヒットしてよく耳にします。これほどまでに多くの人々の気持ちを引きつけるものとは何なのかと思います。

お菓子や飲み物、Tシャツなどの衣類などコラボ商品やサービスなどますます増えていけば、さらに数千億円もの経済効果が生まれていくとも言われています。いずれブームは終わるものですが、今ならどんなものでも「キメツ」とコラボしていけば何でも売れるでしょう。

日本のアニメ、まんがは今までのいろいろな作品が世間を席卷してきました。またブームを起し、キャラクターやコスプレとどんどん広がりを作っています。この閉塞感ただよう中で子供たちの夢や希望を育み、明るい未来を作り出してきたことは否めないでしょう。日本のアニメ、まんがは今文化といってもおかしくないと思います。

私も若い頃「あぶさん」というまんがにはまっていました。作者の水島新司氏が引退され懐かしく思いました。「あぶさん」と「ドカベン」で野球の面白さや楽しさを知りました。息子たちもよくコミックを読んでいた。「キャップテン翼」「ドカベン」「ワンピース」「プロゴルファー猿」「つりキチ三平」「シュート」「スラムダンク」「ブラックジャック」など相当数の本が積み上がり置き場所に困ったこともありました。スポーツものが多かったのですが、読んでいくとよく調べられていて知らないこととかよく勉強させられました。

「あぶさん」は酒の題目がいくつかあり酒の勉強にもなりました。酒の2級酒は「軒覚め」、1級酒は「村覚め」、特級酒は「県覚め」など今ではほとんど死語になった言葉もありました。

コロナ禍で旅行や遊びも制限される中、たまにはコミック本でも読んで頭をリラックスされるのもよいかなと思います。残りわずか、「全集中」でやり遂げます。

6月9日

こんにちは、皆様お元気でしょうか？

コロナウイルス感染者も少なくなってきました。早く例会が開催できることを祈っています。

さて、今週は第一生命保険恒例のサラリーマン川柳コンクールの人気投票結果ですコロナ禍で生活、働き方など世の中が大きく変化する中でも頑張るサラリーマンが想像できるユーモア溢れる作品ばかりです。

1. 「会社へは 来るなと上司 行けと妻」

この第1位の川柳は新型コロナウイルスの感染拡大後に広がったテレワークで、家庭と職場の板挟みになるサラリーマンの悲哀をうたった30代男性のグランプリ受賞作品です。

2. 「十万円 見る事もなく 妻のもの」

一人10万円の特別定額給付金を巡る日体験を描いたものでしょう。1位、2位ともに夫婦の力関係が見えてきます。はたから見れば笑えるけど、何か情けないものを感じるのは私だけかな～

3. 「リモートで 便利な言葉 “聞こえませんか！”」

テレビ会議の様子を切り取った様子を表現されています。わかる気がします。私も何度か居眠りしていました。

4. 「嫁の呼吸 五感で感じる！全集中!!」

「鬼滅の刃」ものです。子供を病院へ連れて行くと泣くそうですが、先生の前で「全集中」というと泣き止むそうです。

5. 「じいちゃんに J. Y. Parkの 場所聞かれ」
ご存知でしたか？私は何のことか知りませんでした。
6. 「我が部署は 次世代おらず 5爺（ファイブジイ）」
自分のことを言われているようです。
7. 「お父さん マスクも会話も よくずれる」
いつもずれまくりです。
8. 「YOASOBIが 大好きと言い 父あせる」
これは知っていました
9. 「お若いと 言われマスクを 外せない」
早く外したい
10. 「抱き上げた 孫が一言 密ですよ」
私も1年以上孫に会っていません。大きくなっているようです。多分抱き上げるのは無理でしょう。
よく世相を反映して、思わず相槌を打ちたくなる作品ばかりです。サラリーマンの悲哀が良く表現されています。皆さんも時間のある時、作品造りに挑戦してみられるのは如何でしょう。

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：村岡俊宏 副会長：豊田裕康 幹事：黒岩久登 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jpまで送信してください。